

湊山小学校利活用事業 事業実施計画(優先交渉権者提出資料から抜粋1)

THE BASE FOR THE URBAN REGENERATION 地域再生を方向づけるための拠点施設

平成27年(2015年)に141年の歴史を閉じた湊山小学校は、兵庫の歴史の中心でありつづけた湊川の起点に立地し、平清盛が雪見の御所をおいた歴史的な場所です。明治32年(1899年)に現在の土地に校舎建設が始まりましたが、造船業など兵庫区南部の重厚長大産業の発展を背景として、その頃から付近の宅地化が急速に進展し、校区内の人口も急増しました。昭和13年(1938年)の阪神大水害では一帯は大きな被害を受けましたが、戦災や阪神淡路大震災による被害は比較的少なく、高

度成長期にかけて建てられた住宅が多く残ったことから、**不燃化領域率が35.4%にとどまる木造密集市街地が広がっています。**建て替えや新しい世代の流入も見られますが、区画形状や接道状況によって再建築が難しい敷地が多く、流入傾向がエリア全体に広がるには至っていません。鉄道駅から遠いことや集客の拠点が見あたらないことから、エリアイメージが確立しにくい地域でもあり、神戸の都心に近接している好立地を活かす施策ニーズが高いと考えられます。

地域再生を方向づけるための拠点施設づくりへ

100年以上、地域のアイデンティティの中心となってきた湊山小学校の跡地利活用の事業提案を、地域が再生に向かうための最大のチャンスと捉え、この小学校跡地を地域の魅力を引き出しつつ、高齢化や空家増加に伴う**地域の諸課題を解決し、人びとが住みたくなる地域へと進化していくための拠点施設**とすることを提案します。

CONCEPT

SOCIAL BIOTOPE 地域のつながりを再生するために

かつて平清盛が雪見の御所をおいたこの地は、湊川が流れ出る兵庫の歴史の源。いち早く開校し、近隣の学校の母体として地域の発展の先駆けとなった湊山小学校の歴史をつなぎ、地域社会の豊かなつながりを再生することをめざし、「**Social Biotope**」をコンセプトとした森、「**Forest Campus**」が生まれます。

緑豊かな特性を活かした地域再生のシンボルとして、小学校跡地を森に包んだ新しい景観をつくり、地域の記憶をやさしく包み込みつつ未来へとつなげます。**Forest Campus**の森は景観であると同時に、豊かな相互関係のシンボルであり、社会をつなげる媒介(カタリスト)として働きます。

森に育ち、森に学び、森を食べる。そして森で働き、森に癒やされ、森を育てる。何かを頂くために森を訪れつつも、いつしか森を地域に広げていくつながりが生まれていくように、**Forest Campus**は、誰もが支え、支えられる互助(助け合い)の社会をめざした取り組みです。

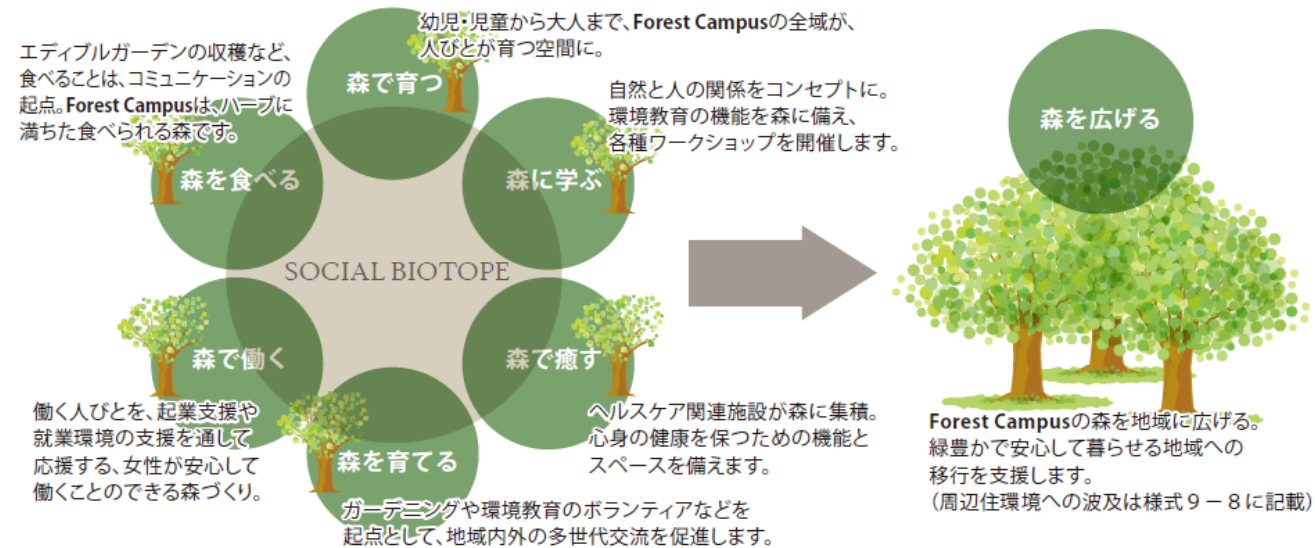
湊山小学校の跡地から生まれるこの森は、兵庫区北部に新しいシンボルとして、人びとを迎え入れるゲートウェイとなります。そして、この地域が徐々に

防災性と居住性を高めつつ、緑豊かなまちへと進化していくためのリーディングセンターをめざします。

緑豊かな地域をつくりたい。そして、小学校の記憶を引き継ぎつつ、多様な世代が輝くステージをつくりたい。その想いをこめて施設名を**Forest Campus**としました。



THE CATALYSTS IN THE FOREST CAMPUS ソーシャルビオトープの6つの機能



THE MIXED-USE FOREST DEVELOPMENT 基本指針:湊山小学校は、森のまちづくり拠点へ

湊山小学校跡地を含むこのエリアは兵庫の発展を見守ってきた奥座敷。ゆるやかな山並みと水景を合わせもつ住宅地には、市民が長年にわたって育ててきた様々なグリーンが小径を彩り、**緑豊かなガーデンタウンへ再生する可能性を大いに秘めています。**

Forest Campusは、森と建物が融合した心地よい景観づくりとエネルギー・水資源の効率的な利用に配慮し、緑豊かな地域づくりをリードするまちづくり拠点をめざします。また、誰もがその特徴を活かしながら相互に助け合う社会づくりをめざして、ユニバーサルデザインに基づいた施設づくりに取組みます。

ユニバーサルデザイン

Forest Campusは、子育て世帯から高齢者の健康づくり拠点まで、さまざまな世代の利用を見込んだ拠点です。このため、施設内のバリアフリー化だけでなく、屋外空間のガーデニングを通じた交流の機会づくりや、地域の暮らしの安全へとつながる防災コミュニティづくりの機運醸成など、ユニバーサルな地域づくりに貢献します。

緑化・低炭素社会の実現

Forest Campusは、緑豊かな地域への再生をシンボリックに表現する緑につつまれた開発をめざして、屋内から屋外のスペースを緑化するだけでなく、建物と植物が融合した特徴的な景観をつくりあげます。また、雨水・井水等の利用によって水道使用量を低減するほか、センサーやデマンド制御などを通して共用部電力の使用量削減を図ります。

木材利用の促進等へ向けた取り組み

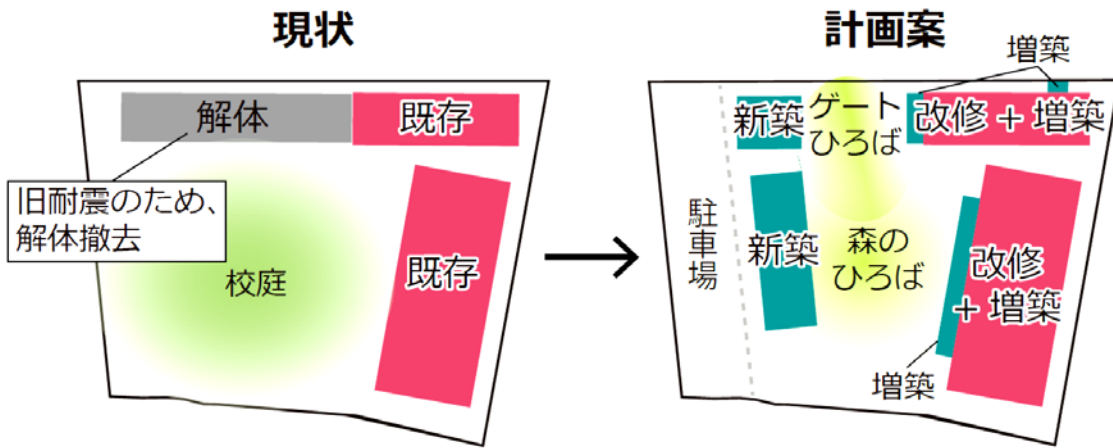
公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律においては、日本の森林保全をその目標に掲げており、**Forest Campus**はまさにその立法趣旨に沿った森林景観をつくります。また、新築建物の一部に木造の採用を検討するほか、内装や植栽の基盤等に木材利用をすすめます。

社会的コスト削減への取り組み

建築の最大の社会的コストは、解体にともなう建築廃棄物の存在です。**Forest Campus**は、既存の建築物を最大限利用することにより、全面的な建て替えのプロジェクトと比較して、飛躍的に建築廃棄物の量を削減するとともに、騒音や振動などの環境悪化を最小限に留めます。

以上は、事業者からの提案内容であり、今後事業者との協議の上、変更されることがあります。

湊山小学校利活用事業 事業実施計画(優先交渉権者提出資料から抜粋2)



既存棟：湊山小学校の記憶を地域の未来へつなぐ



新築棟：まちの進化を促進する新しい場所



以上は、事業者からの提案内容であり、今後事業者との協議の上、変更されることがあります。

湊山小学校利活用事業 事業実施計画(優先交渉権者提出資料から抜粋3)



以上は、事業者からの提案内容であり、今後事業者との協議の上、変更されることがあります。

湊山小学校利活用事業 事業実施計画(優先交渉権者提出資料から抜粋4)



北側道路からゲートひろばを見たイメージ

以上は、事業者からの提案内容であり、今後事業者との協議の上、変更されることがあります。